

2024年12月10日

日本獣医生命科学大学  
獣医学部長 田中 良和  
応用生命科学部長 有村 裕

## 日本獣医生命科大学における生成AI利用ガイドラインに係る 運用手引き（学部）

2024年8月19日付け日本獣医生命科大学における生成AI利用ガイドラインにつきまして、以下に学部学生等の運用手引きを示します。

### 生成AIの課題

- ・情報の信頼性：出力された情報が正しいとはかぎりません。同じ質問をしても、異なる答えが出力されることがあります。また、AIが学習していない情報は出力されません。
- ・剽窃や著作権：出力された情報の利用方法によっては、剽窃や著作権侵害にあたることがあります。
- ・プライバシーや機密情報の管理：個人情報や機密情報を入力するとデータベースに蓄積され、知らないうちに流出するおそれがあります。
- ・学習効果：生成AIはあくまで補助ツールであり、依存しすぎると学習の効果が薄れます。

### 生成AI利用上の注意

- ・生成AIの出力結果を参考にするときは必ず別の情報源（教科書、専門書など）にもあたり、根拠の確認や関連情報の探索を行いましょう。
- ・講義課題資料、実習レポートや研究報告の作成において生成AIを利用した際は、その事実（利用日時、利用サービス名、入力事項の概要）を必ず明記しましょう。
- ・個人情報や機密情報は、絶対に入力しないでください。
- ・生成AIを過信せず、自分で作成した文章の校正（誤字等の確認）を目的として利用しましょう。
- ・講義課題資料、実習レポートや研究報告で使用する画像については、事実と異なる画像を生む可能性があることから画像生成AIを利用しないでください。

生成AIは学生にとって非常に有用なツールですが、使用する際にはいくつかの注意点があります。以下に、具体的な使用場面と注意点を挙げます。

### 使用場面

- ・リサーチと情報収集：生成AIを使って、特定のトピックに関する情報を迅速に収集できます。  
例：歴史のレポートを書く際に、関連する出来事や人物についての情報を集める。
- ・エッセイやレポートの作成：生成AIは文章の構成やアイデアの整理を助けることができます。
- ・言語学習：生成AIを使って、外国語の文章を作成したり、翻訳を行ったりすることができます。  
例：自身で作成した英語の作文の添削。
- ・プログラミングのサポート：コードの生成やデバッグを助けることができます。

例: プログラミング課題のコードの一部を生成したり、エラーの原因を特定。

#### 注意点

- ・著作権とプライバシー:他人の作品を無断で使用しないようにし、生成 AI が作成したコンテンツも適切に引用することが必要です。
- ・倫理的な使用:不正行為（例: 試験中のカンニングや他人の作品の盗用）に生成 AI を使用しないこと。
- ・プライバシーの保護:個人情報や機密情報を生成 AI に入力しないように注意すること。

生成 AI を賢く使うことで、学習の効率を大幅に向上させることができますが、常に注意深く、倫理的に使用することが求められます。